

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570200636
法人名	医療法人 与州会
事業所名	グループホーム ウエルネス
所在地	都城市上東町26街区11号 (電話) 0986-24-0167
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21年 5 月 25 日

【情報提供票より】(平成21年 5月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 8 月 30 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 15 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(家賃1ヶ月分円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800 円		

(4) 利用者の概要(5月19日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 84.5 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柳田病院 柳田クリニック 安富歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

2階建てのホームで2階にはゆるやかなスロープを登り、下に鯉が遊ぶ小さな川の流れと遠くに山を眺められる、日当たりの良い広い敷地には梅檀や梅の木があり菜園もある。近くにドラッグストアや生鮮食料品店、法人系列の介護老人保健施設などあり、生活していく上で恵まれた環境の中にある。代表者は利用者の尊厳の保持とその有する能力に応じた自立した日常生活を営み、地域で継続した家庭的な環境の中で医療連携のもと機能の維持訓練をしながら、利用者主体のサービス提供を目的としている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員の外部研修への参加は少ない現状にあるが、事業所内の勉強会(研修)を各週実施し、職員全員が参加するシステムになっている。洗剤等は利用者の手の届かない倉庫に保管されたり、取り扱いに必要な物品の保管にも注意が充分にされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が評価の意義を全職員に話し、各委員会に項目毎に振り分け、職員全員が評価や具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議に利用者、家族、公民館長、市職員の出席でサービスの実際と介護相談員の意見、評価の取り組み状況の報告をもとに出席者等との意見交換が行われ会議録に詳細に記録されサービス向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に電話や来訪時に報告し、避難訓練時や外出時等の写真をいれたホーム便りを年4回送付している。金銭については一人ひとり出納簿で管理し家族への報告と確認もされている。家族アンケートを実施したが、「直接話した方が良い」との意見があり、意見箱はそのまま設置している。運営推進会議に家族の出席を依頼し、また来訪時に話を聞くようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員として自治会に加入し、回覧や広報を配布してもらい、地区の祭りの参加と作品出品は恒例となっている。ボランティアや保育園児の訪問を受け交流を行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念を基に創設時よりグループホーム独自の理念をつくり職員全員で見直しをして現状維持としている。		地域密着型としての理念は掲げては無いが、より積極的な理解と協力を得るため、玄関の理念に地域を考慮した理念も加えてみてはどうだろうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で見直しをし、職員に浸透し日々実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に加入し、回覧や広報を配布してもらい、地区の祭りの参加と作品出品は恒例となっている。ボランティアや保育園児の訪問を受け交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が評価の意義を全職員に話し、各委員会に項目毎に振り分け、職員全員が評価や具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に利用者、家族、公民館長、市職員の出席でサービスの実際と介護相談員の意見、評価の取り組み状況の報告をもとに意見交換が行われ、会議録には、詳細に記録されサービス向上に活かしている。		地域の住民代表として公民館長以外にも民生委員や老人会、警察、消防関係者の出席があれば違った貴重な意見が期待できるのではないだろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市の担当職員が出席している他、介護相談員の訪問もあり相談しやすい関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に電話や来訪時に報告し、避難訓練時や外出時等の写真をいれたホーム便りを年4回発行している。金銭については一人ひとり出納簿で管理し家族への報告と確認もされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを実施したが、「直接話した方が良い」との意見があがり意見箱だけはそのまま設置している。全家族に運営推進会議への参加を依頼している他、来訪時に話を聞くようにして、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員ローテーションで二つのユニットのケアに当たるため、利用者全体を把握し、職員の異動に際しても、利用者にはダメージを与えないように配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人併設事業所での研修を毎週30分程度受けており、ホームのミーティング時に報告しているが、職員全員が参加できるような外部研修計画はない。	○	職員全員が何らかの外部研修に参加することで、同業者との交流の機会や、専門的な知識を得ることで質の向上につながる取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県南のグループホーム連絡協議会に参加し、情報交換など行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	レクリエーションや団欒の場で入居者に紹介している。家族と電話で話したり、職員と外に出たりしながら、徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人のできることを尊重し、手出しをしないで出来た時は共に喜び、よく話を聞いている。あくまきや漬物などの作り方を教えてもらいながら、利用者主体の生活を重んじ共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時と日ごろケアする中で、本人の希望やカンファレンスで家族の意向を伺い、常に本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時におけるカンファレンスには利用者家族が出席し、本人、家族、利用者担当職員の意見を基にケアマネジャーが管理者とともに介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画はケア記録に記載しており、計画に沿った記録をするようになっている。別に、毎日の評価表にチェックし、月に1回評価し3ヶ月毎に計画の見直しを行っている。また、必要に応じ関係者と話し合い、現状に即した計画を作成をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況等により、利用者の受診や外出を支援し、他科受診は家族に依頼している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望で同法人の医療機関をかかりつけ医とし、他科のかかりつけ医を受診する際は情報を提供している。また、医療連携体制のもと24時間看護師が対応し健康管理を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に終末期については、家族の希望に添うように援助する旨説明し、同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は理念である利用者の尊厳と利用者主体の自立支援を目標に自分の親のように大切に対応しており、言葉かけや個人情報の取り扱いには気配りをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者も身体機能のレベルが下がる中代表者は利用者の体力を第一に入浴や行事など負担にならないように利用者本位の対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は1年分作成してあるが、時には旬の食材を利用し、利用者の状態にに合ったミキサー食、刻み食も、彩りや、盛りつけに工夫した調理をしている。職員もさりげなく介助しながら一緒に食している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調に合わせて負担にならないよう一人ひとりの希望に合わせてゆっくり入浴できるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活はもとより、年間行事を決めて、外出ドライブや花火大会、お祭りなど毎月家族の協力を得ながら、利用者の楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事に、ドライブを兼ねた花見などあり、家族の支援を得て実践しているが、利用者の重度化に伴い日常的に外出することは難しくなっている。	○	車椅子での日常的な散歩や、馴染みの場所へ外出することを考慮しているようなのでぜひ取り組んでいただきたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の所在を安全のために常に認識するようにしているので、鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消火訓練や夜間を想定した避難訓練を地区の消防団や家族の緊急連絡網も利用し協力も得ながら行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は栄養士と相談して、1年分を作成し病状や好み、旬の物を取り入れたりしながら調理している、個人記録には、食事摂取量を記載し水分も適量摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間は広々としており、ゆったりとしたソファァーがテレビの前におかれ、ガラス戸を開けると広い庭の木々が見え、風が建物全体を吹き抜け明るくさわやかである。また、取り扱いに必要な物品の保管にも注意が十分にされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームの案内にタンスなど使い慣れた物の持ち込みが記載してあるためか、居室には、それぞれタンス等が置かれ、花や写真、装飾品などで落ち着ける部屋づくりがなされている。		